

第十一回

琉球・中国交渉史に  
関するシンポジウム

論文集



吳元豐氏



張小銳氏



伍媛媛氏



王金龍氏



豐見山和行氏



真榮平房昭氏





首里城前にて



識名園にて

## 第十一回シンポジウムの開催にあたって

沖縄県教育委員会教育長 諸見里 明

本日、「第十一回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」の開催にあたり、主催者沖縄県教育委員会を代表しまして、ご挨拶を申し上げます。

沖縄県は、かつて琉球王国として、中国と長期にわたり交流した歴史があります。この交流の歴史を証明する史料の一つとなるものが、沖縄県教育委員会が編集刊行している『歴代宝案』です。『歴代宝案』には四四四年にわたる琉球王国の外交文書が収録され、その大部分を中国と交わした文書が占めています。

さて、中国第一歴史檔案館には清代の琉球関係檔案史料が保存されています。これらの多くは『歴代宝案』に収録された文書と相互に補い合う非常に貴重な史料となっています。

一九九一年、沖縄県教育委員会は中国第一歴史檔案館と学术交流に関する覚書を結び、以後、琉球関係檔案史料の発掘及び研究者の交流等を展開し、学术交流は今年、二十五年を迎えます。

この間、中国第一歴史檔案館が所蔵する一千万件余りの膨大な檔案の中から、琉球関係檔案史料の発

掘に尽力して下さっていることに対し、心から感謝申し上げます。

本で行われるシンポジウムも、学術交流の協議書に基づき、沖縄と北京で交互に開催されるもので、今回で十一回目となります。これまでの私たち双方の学術交流における史料の発見と出版・解釈と研究等の成果は、琉中関係史の研究の内容を豊かにする等、琉球・中国・日本、さらには東アジアの交流史研究の発展に大きく貢献してきたと自負しております。

本日のシンポジウムでは中国側から中国第一歴史檔案館の呉元豊氏・張小銳女士・王金龍氏・伍媛媛女士の四名、沖縄側からは歴代宝案編集委員会の琉球大学の豊見山和行教授、同じく真栄平房昭教授の二名がご専門の立場から発表してくださいます。日中の研究者が一堂に会するこの発表の場が、琉中関係史研究の更なる進展と、沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館との学術交流のより一層の発展につながるものと確信しております。

結びに、本シンポジウムの成功を祈念するとともに、御発表及び御来席の皆様のみますますの発展と御健勝を心から祈念しまして、私の挨拶といたします。

平成二十七年（二〇一五）十一月十四日